

中間報告書に対する職員の意見

【現状課題】

分類	中間報告書への意見等
図書館	現状の図書館の閲覧室は146㎡(うち司書室25.82㎡)で十分な広さがあるとは言えない。ークラス入ると狭く、圧迫感がある。
	授業や課題研究等で利用されている図書館が、ICT教室とも視聴覚室とも離れている。
生活空間	生徒が一人になれる場所・職員に気軽に相談できる場所が少ない
防災対策	廊下は移動時の動線だけでなく「緊急時の避難用動線」でもある。可動性の物が置かれていると地震時に通路をふさがり閉じ込められる等、避難時の障害物になりうる
施設管理	簡単に確認できる構造(昇降梯子、点検通路空間含)が整備されていないと、自己確認や業者による見積等のために高所作業車や足場の設置を必要となる
	地下空間(給水管、排水管等)のピット空間が無い場合、コンクリートなどを破壊しないと状況確認ができない。

【質問】

分類	中間報告書への意見等
施設管理	外部委託が可能な施設管理業務とはどのようなことを想定しているのか。
執務空間	大職員室と研究室的機能との両立のイメージがつかめない。どのように両立を図るのか。

【意見】

分類	中間報告書への意見等
学習空間	中廊下の採用には、採光が課題
	勾玉型の机などフレキシブルにグループワークに適した形にできるものが望ましい
	ICT教育が進む中では校内にWi-Fi環境が整備が必要
	講義室と個別学習・グループワークスペースが別々に設けてあるが、いずれも「学習室」として、講義にも、個別学習にも、グループワークにも活用できる
	狭い教室に40人がひしめき合って生活しているという点が、機能的でなく、精神的にも窮屈である
	大職員室は、研究室に居場所を求めている生徒が職員に気軽に相談しにくくする
	空き教室・スペースを余分な空間であるという考え方を、変えていくことが必要
図書館	ブラウジング、読書、調査研究、グループ学習のためのスペースには、現在の広さの2倍が必要。
	従来型の6人がけの閲覧机ではなく、ラーニングテーブルのような可動式の家具の導入を検討すること必要
	メディアセンターにはメディアをより適切に利用し、深く思考する学びへと導く、司書教諭と学校司書とが常駐し、学習者や授業者を支援していくことが必要。
	図書館は、メディアセンターとしての役割と静かに読書できる空間、一人になれる空間も確保されていることが望ましい。校舎内のどの位置にあるかも重要。

	図書館を学習センターとして機能させるには司書が必要不可欠である
	図書館は第2の保健室という側面も合わせている。教室や交流スペースにいられない生徒の空間と位置づけが必要
部活	部活動でも教室を放課後に使う。部活動は学校としての特別教育活動。施設・設備面では最大限配慮が必要
生活空間	従来の管理的設計から生徒の主体性に委ねる設計への変更により、生徒に対するケアを行う人的資源はより多く必要。
	開放的でフレキシブルな空間を最大限に生かすには、冬の寒さ対策として、全館暖房および昇降口や外への扉などからの外気をシャットダウンする設備が必要。
	心に悩みを抱える生徒やクールダウンの必要な生徒の居場所となる空間やカウンセリング室、相談室など小さな部屋も必要
	トイレ様式化については、家庭・他施設等の状況(普及率も)を踏まえ、社会変化状況に対応した整備が必要。
	半密閉型ストーブからFF等への転換が必要。
	カフェテリア等、快適な学生生活のため食事場所、 <u>食事の提供方法</u> についても記載が必要
	弁当を持参しない生徒も多く、パン等購入しているが、「食育」の点からも成長過程にある生徒にふさわしいとは思われないので、 <u>校内に食事を提供できる場所があることが望ましい。</u>
地域での施設利用、共同利用の観点から、バリアフリー(エレベーター、昇降機)、教室入り口・通路等の段差解消、廊下幅確保、引き戸等が必要	
学校は閉鎖された場所であり、気分転換が必要である。学校の敷地が広いという利点を生かし、外の空気を吸える空間やカフェがあると居心地がよくなる	
執務空間	<u>仕事環境を整えることは重要。豊かな職員の発想も美しい空間があつてこそ。廊下や机の上、棚の上、物だらけでは教育によい発想は生まれない</u>
大職員室	<u>大職員室の設置のより生徒の動向に目が行き届かくなり、いじめや盗難といった校内でのトラブルや人権問題発生が予想される</u>
	大職員室には、収納設備を充実させることにより、室内を見渡すことができる環境が必要
	高校では教える内容も高度になり、教員が静かな空間で研究し、教材を開発することが重要。大職員室とは別に教科研究室は欠かせない
	職員が一堂に会し執務することが必要。相談ブースを多数設けるなど生徒対応がしやすいスペースを併設することで生徒からの質問相談等受けやすくなる
PFI	PFIにおけるvalue for moneyの考え方は、既存の施設運営の固定費はほとんど増減しないため、必然的に施設で人件費を際限なくカットしていく方向に向かう。長期的な視野にたって子どもを育てる教育分野への導入は、極力限定すべき
	学校の施設管理は教育活動と密接なかかわりをもっており、教員が直接業務を依頼できないPFI導入によって、施設運営側の都合で教育活動が左右されかねない。
施設共有	少子化、地域の活力の低下が懸念される状況の中、地域との施設の共有は積極的に進めることが必要
	プールについては、維持管理費用が多額で清掃等の手間が多い割に、使用日数が少ないため近隣学校のプールや民間プール施設を借りることが望ましい。民間のプール施設にとっては平日の昼間は空いていると思われるため学校と民間プール施設でウイン・ウインの関係を築くことが可能

	他のプール施設を利用する場合、生徒の移動手段について配慮が必要であり、複数の学校の公用バスを集中管理し、授業時間に応じプール送迎を円滑に行うなど、配慮が必要である。
施設管理	よい教育施設を運営するためには適切な人員配置が不可欠であるという視点を盛り込む必要がある
	「生徒の清掃」に頼っていてはきれいな状態は保てない。専門業者による清掃は欠かせない
	「水銀に関する水俣条約」に基づく水銀灯の製造中止、水銀使用の蛍光灯の製造縮小(2021～)とともに、将来的に製造縮小となることを想定して段階的に転換を検討することが必要。
	特殊なデザイン・素材は、オーソドックス(汎用的)なものと比較して修繕改修時に費用が割高になる。
	「壊れたらその部分だけ修繕する」という方法では、経費がかかる上、修繕要望が減ることはない。、少子化に加え、生徒も離れていき、悪循環に陥る
	特色ある学校を作り、特色に対応した学習空間を備えた新校舎を建築していったほうが良い
	維持管理の外部委託は、完全に委託することができれば、経費の削減と業務の効率化が図れる
安全対策	わいせつ事案対策も必要
	防犯面で安全な校舎ということもさらに考えることが必要
防災対策	防災の観点もこれまで以上に検討が必要
	教室のガラス張りは地震時に破損・飛散し負傷する危険あり。透明度の高いアクリル素材など、危険防止も想定した素材の検討必要。
	モルタル吹付、タイル張り等は老朽化で剥離・落下による事故が想定される。道路構造物では、安全上の観点等から、モルタル吹付をしていた法面を他の構造物や芝の植栽などに転換している。
計画	施設は、学校の運営面でのランドデザイン(どのような学校を作っていくかという学校の独自性)を元に考えられていくべきものであり、教育職員と行政職員が共に考えていく必要
	検討結果が反映されるよう、県全体計画(1)長野県長期ファシリティマネジメント、(2)中長期修繕改修計画、(3)再編・整備計画の各計画に位置付けることが必要
	計画されたものが確実にかつ速やかに進められる仕組み
	最終報告書が予算獲得のための強力な後押しとなるようなものとなることが必要
その他	学校は未来を担う児童生徒を育てる重要な場でありお金をかけるべきというコンセンサスが必要